資料地-27-1

# 情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会
# 地上業務委員会(第26回) 議事概要（案）

１　開催日時

平成２５年９月２６日（木）10:00～12:35

２　場所

総務省10階　総務省第一会議室

３　出席者（敬称略、順不同）

［専門委員］

三瓶　政一(主査)、足立 朋子、飯塚　留美、小川　博世、川口　さち子、佐藤　孝平、
高野　祐美子、中村　勝英、橋本　明、吉田　英邦

［関係者］

新　博行、硎 琢己、植田 由美、久代　雄一郎、福家　直樹、松永　彰、水池　健、
本多　美雄

［事務局］

森下、高橋、諏訪、五十嵐

４　配付資料

資料地－26－1　　地上業務員会（第25回）議事要旨（案）
資料地－26－2　　ITU-R SG5 WP5D第16回会合報告書
資料地－26－3　　ITU-R JTG4-5-6-7第3回会合報告書
資料地－26－4　　ITU-R SG5 WP5D第17回会合及びJTG4-5-6-7第4回会合への日本寄与文書（案）
資料地－26－5　　ITU-R SG5 WP5D第17回会合及びJTG4-5-6-7第4回会合への対処方針（案）

参考資料１　　ITU-R SG5 WP5D第17回会合の開催案内
参考資料２　　ITU-R JTG4-5-6-7第4回会合の開催案内
参考資料３　　ITU-R SG5 WP5D第17回会合の日本代表団一覧
参考資料４　　ITU-R JTG4-5-6-7第4回会合の日本代表団一覧
参考資料５　　地上業務委員会構成員名簿

５　議事概要

（１）地上業務委員会（第２５回）の議事要旨について

【資料地－２６－１】

地上業務委員会（第２６回）の議事要旨について、事務局から説明があった。なお、修正項目がある場合は１０月３日（木）までに事務局へ連絡する旨了承された。

（３）ITU-R SG5 WP5D第16回会合及びJTG4-5-6-7第3回会合の報告について

【資料地－２６－２、資料地－２６－３】

事務局から、ITU-R SG5 WP5D第16回会合及びITU-R JTG4-5-6-7第4回会合の報告があり、承認された。

（４）ITU-R SG5 WP5D第17回会合及びJTG4-5-6-7第4回会合への日本寄与文書案について

【資料地－２６－４―１】

高野構成員から「作業文書（M.[IMT.VISION]）に対する修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施し承認された。

三　瓶　主　査：特に重要なのはどういった点か。
高　野　委　員：今後のニーズの変化等についての議論が重要。大きな方向性についてはあと１年くらいで決まってくるのではないか。
三　瓶　主　査：ワークショップについて日本の対応はどうするのか。
佐　藤　委　員：ARIBで立ち上げ予定のグループで取り組んでいく。

【資料地－２６－４－２】

新氏から「IMT.2020.ESTIMATEの作業文書の修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施し、承認された。

三　瓶　主　査：既にWP5DからJTG4-5-6-7へIMTの所要周波数帯域幅に関するリエゾンを送付済だが修正するのか。
新　　氏：続けてレポートとしての完成を目指しているところである。

【資料地－２６－４－３】

新氏から「IMTの周波数要求条件推定ツールのユーザガイドへの修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三　瓶　主　査：今回の修正は、英国・加国への提案に加えての修正か。
新　　氏：そのとおりである。
橋　本　委　員：周波数要求条件推定ツールはオープンにするのか。
硎　　氏：議論の発散等の懸念から、要アカウントとしている。

【資料地－２６－４－４】
硎氏から「暫定新レポート草案ITU-R M.［IMT.ADV.PARAM]への編集上の修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、承認された。

三　瓶　主　査：既にWP5DからJTG4-5-6-7へ共用検討パラメータに関するリエゾンを送付済みだが、修正を加えても問題ないのか。
橋　本　委　員：当該レポートの責任グループはWP5Dなので問題ない。

【資料地－２６－４－５】
本多氏から「M.［IMT.FUTURE TECHNOLOGY TRENDS］およびM.［IMT.VISION]作成における考慮」について説明があり、以下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施し、承認された。

橋　本　委　員：本提案に今後の線表を載せているが、これをWork Planに反映するのか。
本　　多　　氏：議論のベースに用いる予定であるが、必要に応じ反映する。
足　立　委　員：本提案によりVISIONの内容が薄くならないか。
佐　藤　委　員：FUTURE TECHNOLOGY TRENDSの内容をVISIONで参照するので問題ないと考える。
三　瓶　主　査：本提案は日中韓での共同寄書だが、他国から変更が入るおそれは。
本　　多　　氏：各国最終段階での議論なので、大きな変更はない。

【資料地－２６－４－６】
新氏から「WRC-15議題1.1に関連したIMTの周波数要求条件に関するCPMテキスト案の提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施し、承認された。

三　瓶　主　査：今回の内容は、WP5Dから前回JTG 4-5-6-7に送ったものの一部か。

新　　氏：前回の内容から、追加で必要な分だけを抽出したもの。

【資料地－２６－４－７】

植田氏から「固定業務との共用検討の結果に関するCPMテキスト案の要素の提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施し承認された。

三　瓶　主　査：小セルと固定業務の共用検討は以前からあったのではないか。
橋　本　委　員：衛星関係との共用検討はあったが固定業務はない。
三　瓶　主　査：国境線が近く国境線が複雑な国だと検討が難しいのでは。
新　　氏：おっしゃるとおり。我が国としては、当該帯域の特定に向け議論をけん引していきたい。

【資料地－２６－４－８】

新氏から「暫定新報告案ITU-R [C-BAND DOWNLINK] に向けた作業文書への修正提案」について説明があり、以下の質疑応答の後、コメントを踏まえた修正を施し、承認された。

三　瓶　主　査：本提案にある場所を特定しないというのはどういった検討をするのか。
新　　氏：地形のロスを考慮せず、厳しめに評価するものである。
橋　本　委　員：同じ文書への修正提案が日本からもう一件ある。相互参照できるようにnoteしておくべき。
新　　氏：修正する。

【資料地－２６－４－９】

新氏から「C-bandの衛星関連の研究に関するCPMテキスト案の作業文書への修正提案」に関する寄与文書案について説明があり、以下の質疑応答の後、エディトリアルな修正を施し承認された。

三　瓶　主　査：6,700MHzとあるが、6GHz以上は検討しないのではなかったか。
橋　本　委　員：提案されていた帯域の下限が6GHz以下だったことから、6GHz帯として整理されているところ。

【資料地－２６－４－１０】

硎氏から「1400-1427MHzのRASと1.4/1.5GHzのIMTを考慮した移動業務との両立性」

に関する寄与文書案について説明があり、下記質疑の後、承認された。

三　瓶　主　査：ビームチルトについてはどこで決められた値か。
硎　　氏：WP5Dで決められた値を用いている。

【資料地－２６－４－１１】
硎氏から「WRC-15議題1.1における1 427.9-1 462.9MHz and 1 475.9-1 510.9MHz 帯のIMTと1400-1427MHzのEESSとの両立性に関する考察」に関する寄与文書案について説明があり、エディトリアルな修正を施し承認された。

【資料地－２６－４－１２】
硎氏から「1.4GHz帯における科学業務とIMTの両立性検討に関する暫定CPMテキスト案作業文書の修正提案」に関する寄与文書案について説明があり、特段の意見はなく承認された。

【資料地－２６－４－１３】
硎氏から「1452-1492MHzにおけるIMTとBSS（放送衛星業務）の共存に関する検討についての技術的考察」に関する寄与文書案について説明があり、下記質疑の後、承認された。

橋　本　委　員：第三者的なBSSの数値の修正について、総務省の見解如何。
事　　務　　局：関係課にも確認を取っており問題ない。

【資料地－２６－４－１４】
福家氏から「レポート案ITU-R[C-band downlink]に向けた作業文書における共用検討のアップデート」に関する寄与文書案について説明があり、橋本委員からの「資料２６－４－８と相互参照できるようにすべき。」とのコメントを踏まえた修正を施し、承認された。

【資料地－２６－４－１５】
松永氏から「3400 – 4200 MHzレンジをFSS地球局とMS基地局が共有する際の離隔距離を算出する方法に関する暫定新勧告草案に向けた作業文書」に関する寄与文書案について説明があり、橋本委員から「勧告作成の重要性について追記すべき」との提案がなされ、コメントを踏まえた修正を施し、承認された。

【資料地－２６－４－１６】

事務局から「日本のUHF帯における放送とIMTの利用状況及び共用可能性に関する情報提供」に関する寄与文書案について説明があり、下記質疑の後、承認された。

三　瓶　主　査：本提案は情報提供とのことだが、日本の姿勢は。
事　　務　　局：あくまで情報提供。賛否についての意見はない。

【資料地－２６－４－１７】
事務局から「特定の地上デジタル放送方式によらない、IMTとの共用検討の方法の適用性」に関する寄与文書案について説明があり、下記質疑の後、承認された。

三　瓶　主　査：本提案のアウトプットは何を求めるのか。
久　　代　　氏：アウトプットを求めるものではない。

（５）ITU-R SG5 WP5D第17回会合及びJTG-4-5-6-7第4回会合への対処方針案について
【資料地－２６－５】
事務局より、ITU-R SG5 WP5D第17回会合及びJTG-4-5-6-7第4回会合への対処方針（案）について説明が行われ、承認された。

（６）その他
修正の必要がある寄与文書については、１０月１日（火）１２：００までに事務局に提出することになった。
また、承認された寄与文書について、大きく主旨の変更がない限りは、文書案の変更の可能性がある旨、事務局から了承を求め、承認された。

以上